



仲間を支えられて

私が働く工場が閉鎖され、他県へ親を置いて転勤するか退職するか悩んでいたとき、まなぶの多くの仲間が「辞めたら今の条件以上の職場ないよ」「転勤せずに働き続けたいと要求できないのか」「労働組合はどういうているのか」など、もう辞めようと思っていたときに親身に話し合ってくれました。ひとりで悩んでいたときも、「辞めるのはいつでも出来る。辞めないための要求はなにかを考えよう」と前向きにあきらめない方法は何か、と一緒に考えてくれました。職場では一人でも、多くの仲間の声の後押ししてくれて5回の面接も乗り越えることができましたし、「チャンスがあれば地元に戻す」とを約束させる要求も取れました。

また、転勤となれば一人の問題ではないのだから、家

族も交えて話し合わなくてはと、家にも何回も来てくれて話し合いました。最初は、置いていかれる不安と寂しさで反対していた父親も、最後は力強く送り出してくれました。

私が留守の家で学習会や会議を開いてくれて、父親の様子も見てくれましたし、「まなぶの仲間は全国にいる」と、転勤先で近くの学習会に私を誘っていただき参加していました。

もうすぐ、定年になりますがああ時の仲間の支えがあったから、辞めずにすんだ、今の自分、生活があるのだと思っています。これからも、一緒に仲間作り、読者拡大を目指していきたいと思えます。

労働大学企画編集委員 岸 真弓